

エフクレタヌキモ *Utricularia inflata* Walter

【概要と選定理由】

北アメリカ東部原産の多年生草本で、水生食虫植物。植物体のまま水中を浮遊して越冬し、水流に乗って分布を広げる。春と秋の2回、水面に放射状の浮き袋に変化した葉を広げ、花茎を立てる。水面を占有するので、在来の水生植物に影響を与える。国の特定外来生物に指定されており、重点対策外来種でもある。

【形態】

茎は良く分枝し、2mほども伸びる。葉は放射状に輪生する。春と秋の2回、4~9枚の浮き袋に変化した葉を茎の先に輪生し、4~20cmの花茎を立てる。花は鮮黄色で1.5~2.5cm、長さ8mmほどのタヌキモの仲間としては大きい距を出す。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ東部。ドイツと日本に帰化している。

【国内の分布】

静岡県, 愛知県, 大阪府, 兵庫県。

【県内の分布】

西: 30 竜泉寺町後山池 (千賀敏之 s.n., 2010-12-24T)。尾: 51 天白区島田緑地 (渡辺幸子 5125, 2002-6-20)。



【生育地の環境／生態的特性】

比較的水のきれいな池に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○	○	
水域	○	○	○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

1990年に静岡県磐田市鶴ヶ池で野生化が確認された。食虫植物マニアが放逐したものと考えられる。その後鶴ヶ池では生育が見られていないという。

県内ではまだまだあまり多くは生育していないと思われるが、新城市作手地区の長ノ山湿原付近の池にも生育したことがあったという (稗田真也氏私信)。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ、本種だけを取り上げれば県内で大きな問題にはなっていない。けれども、外来のタヌキモ類は同定が困難なものが多く、食虫植物愛好家やアクアリウムプランツ愛好家によって屋外に放されると、遺伝子汚染も含めて非常に大きな問題になる可能性がある。

豊川市御油町の東三河ふるさと公園修景池に見られるフサタヌキモ類似種と思われるもの (瀧崎 35915, 2020-10-18T, 観察を続けるも開花せず, 同定困難) などは、今後水鳥の足につくなどして他所へも運ばれていく恐れがある。

【関連文献】

平帰化 p.193, 農教Ⅱ p.239, N水草 p.294.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

シチヘンゲ *Lantana camara* L.

【概要と選定理由】

ややつる性の小低木。園芸植物として広く植栽される。栽培されているものの花色はさまざまだが、逸出帰化するのは主に桃色の系統である。国の重点対策外来種とされており、世界の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は長く伸び、多少下向きの刺があり、分枝して斜上し、高さ 1m 程度になる。葉は対生し、長さ 1~2cm 柄があり、葉身は卵形~卵状長楕円形、長さ 5~10cm, 幅 3~5cm, 先端は鋭頭~鋭尖頭、辺縁には鋸歯があり、表面はしわが多く粗毛がある。花期は 6~11 月、長さ 2~8cm の柄の先に多数の筒状花からなる直径 2~4cm の頭状花序をつける。花は筒部の長さ約 1cm, 先は 4~5 裂して平開し、直径 6~8mm, 花序の外側から咲き始め、最初はオレンジ色~黄色、徐々に赤色~桃色に変化する。果実は球形で直径約 3mm, 液質で黒熟する。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ南部~熱帯アメリカ。旧世界の熱帯、亜熱帯域に広く帰化している。

【国内の分布】

本州、四国、琉球、小笠原。

【県内の分布】

東：15 岩田町（瀧崎 26991, 2010-7-29T）、16 柱二番町（瀧崎 27031, 2010-8-25T）、18 中山町（瀧崎 26074, 2009-9-27T）。西：32b 逢妻町（芹沢 92500, 2017-6-14）。尾：41b 八幡（鳥居ちよ子 2828T, 2010-10-20）、42b 新野町（岡本久美子 507, 2000-7-6）、43 末広町（畑佐武司 241, 1999-7-10T）、44a 野間（瀧崎 28879, 2012-11-03T）、48 高蔵寺町（山田果与乃 1843, 2011-10-28T）、49a 稲荷町（竹下希望 1296, 2010-9-14）、50 西区南川町（竹下希望 993, 2010-8-4）、51 天白区音聞山（渡辺幸子 6042, 2010-9-13T）、52 中川区包里（高木順夫 19480, 2010-10-11T）、54 木曾川町玉ノ井（渡辺幸子 6117, 2010-10-15T）。13 豊川市、14 蒲都市（小林 2004）、36 西尾市（旧一色町）、44b 南知多町（小林・深谷 2008）からも記録されている。



【生育地の環境/生態的特性】

路傍や人家の垣根沿い、川岸の土手などに多い。路面間隙的生態を示し、ガードレールの基部のわずかなすき間で大きな株になっていることなどもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯/現在の生育状況】

花壇によく植栽される植物で、栄養生殖的に逃げ出すものと、果実を鳥が食べることによって逸出するものがある。桃色系のものが特によく果実を付け、そのため逸出しているものはこの色が圧倒的に多い。

【被害状況/駆除策と留意点】

沿海部の林縁等に侵入すると在来種に影響を与えるおそれがあるが、現在のところ愛知県内での生育地はほとんどが市街地の路傍等である。

【特記事項】

開花中に花色が変化することからシチヘンゲ（七変化）と呼ばれる。トゲナシランタナと呼ばれることもある。茎に下向きの棘が多いランタナ *L. camara* L. var. *aculeata* (L.) Moldenke も栽培され、42c 富貴（瀧崎 32351, 2016-11-05T）、51 瑞穂区田辺通（芹沢 94305, 2018-7-14）、52 中村区十王町（芹沢 92504, 2017-6-14）で、帰化状態になったものが採集されている。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.156. 東三河農林水産事務所.
小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.256. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

平新版 5 p.175, 農教 I p.262.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ヒメイワダレソウ *Phyla canescens* (Kunth) Greene

【概要と選定理由】

地面を這うつる植物。地面をびっしりと被う。節から発根して栄養生殖する。水田畔の防草緑化材や、住宅周りのカバープランツとして導入された。水田畔では、高い草刈り圧を加え続けないと他の雑草に被陰されて十分に密生群落を作れず、防草効果はあまりない。周囲に逸出したつるが、明るい林縁や芝地などに侵入する。芝地に侵入すると、芝を覆って繁茂する。冬期は葉が枯れる。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

つるは太さ 1.5~3mm で、節間 20~30mm。各節に托葉を伴う葉を対生する。つるは数節ごとに分岐する。若枝では節間が短くなり、節から 15~25mm の短い側枝を分ける。若枝の節と側枝の節に多くの葉がつき、グリーンカーペットのようになる。葉は革質で厚く長倒卵形。長さ 8~13mm 巾 4~6mm。1~2mm の葉柄がある。先の尖る鋸歯があり、葉先は尖る。托葉は狭長倒卵形で長さ 5~7mm 巾 1~2mm。若枝の節から長さ 30~50mm の花茎を立ち上げ、穂状花序を着ける。穂状花序は長さ 8mm、幅 10mm 程度。長さ 3mm の白色~淡桃色の花卉を密に輪生する。花は唇弁花で、中央が黄色くなる。花期は初夏~秋と長い。



吉鶴靖則 681

【分布の概要】

【世界の分布】

南米原産。世界各地に帰化している。

【国内の分布】

全国各地に園芸目的や、カバープランツとして導入されている。

【県内の分布】

東：12 富岡(瀧崎 31815, 2016-5-21T), 13 赤坂町(瀧崎 30727, 2014-10-4T), 16 西赤沢町(瀧崎 30361, 2014-6-28T)。西：30 舞木町(瀧崎 27126, 2010-10-2T)。尾：41a 加木屋町(吉鶴靖則 681, 2015-7-13), 43 峰畑町(鳥居ちる子 2740, 2009-8-28), 44a 野間(高木順夫 16500, 2008-7-24), 50 中区千代田町(鳥居ちる子 2909, 2011-6-10T), 51 天白区道明町(渡辺幸子 6224, 2011-6-9T), 52 港区藤高(高木順夫 18068, 2009-8-9), 55 長野町(渡辺幸子 6282, 2011-7-29T)。

【生育地の環境／生態的特性】

明るい湿り気のある場所を好む。ちぎれた茎の節からも発根するので、挿し芽でも増やすことができる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

カバープランツとして庭園に園芸目的で導入されたり、水田の畔に防草効果を期待して導入されたりした。植栽されたものが無秩序に逸出して、在来種を圧迫するおそれがある。

【被害状況／駆除策と留意点】

植栽地からすぐに逸出して、周囲の植生に影響を与える。ちぎれた茎からも発根するので、駆除の際には注意が必要である。

【関連文献】

国内の主な文献には記載がない。Kew, Plants of the world Online (<http://www.plantsoftheworldonline.org/>, 2020 閲覧)などに情報がある。

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ハビコリハコベ *Glossostigma elatinoides* (Benth.) Benth. ex Hook.f.

【概要と選定理由】

小型の多年生草本。アクアリウムの前景草として、「グロッソスティグマ」の園芸名で流通している。陸生型はパッチ状の密生群落を形成し、地表を完全に覆い、同所に生育する1年生湧水湿地性植物の存続に影響を与えるため、愛知県条例公表種に指定された。現在のところ生育地は限られているが、今後他の場所に投棄されるおそれがあることから、国の重点対策外来種にも選定されている。

【形態】

茎は細く、地表を長く這って分枝し、密集した群落を作る。葉は対生し、長さ2~10mmの柄があり、葉身は楕円形~倒卵形、長さ2~5mm、幅1~2.5mm、先端は円頭、辺縁は全縁、無毛、やや肉質で光沢のある濃緑色である。水中葉は細長いさじ形で、陸上葉よりも薄く、長さ20mm程度になる。花期は7~11月、花は葉腋に1個ずつつき、長さ3~5mmの柄があり、花冠は白色で5裂し、直径2~3mmである。



瀧崎 24934

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオセアニア。

【国内の分布】

愛知県, 兵庫県 (水田光雄氏私信)。

【県内の分布】

東: 18 初立池 (瀧崎 24934, 2008-10-26)。

【生育地の環境／生態的特性】

浅い水中や、水が引いてできる水辺湿地に生育する。陸生型になるが、完全に乾いた環境では生育できない。地下茎は切れやすく、切れた断片が発根して栄養的に繁殖する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

国内では田原市の初立池で最初に野生化した。兵庫県の下水処理場の処理水池や東京都杉並区でも見つかった。田原のものはおそらくアクアリウムの管理をしきれなくなった何者が投棄したか、あるいは意図的に植え込んだものと思われる。池の全周を覆いつくすほどに繁殖したが、2011年に池の耐震工事のため水を落とすところ、乾燥に耐えられず激減した。完全に絶滅してくれることを期待したが、湧水がある場所や土壌が水を含みやすい場所ですぶとく生き残って、水の戻った今、また勢力を拡大している。

【被害状況／駆除策と留意点】

初立池の周囲には何カ所かの湧水があり、秋期水が引いたときにクロホシクサ (国 VU, 県 VU), スズメノハコベ (国 VU, 県 NT), ミズニラ (国 NT, 県 NT) などの絶滅危惧種やその他の稀少な湿地性植物が生育する。このような小型の1年生植物は、多年草で沈水状態でも生育できるハビコリハコベが先に密生した群落を形成してしまうと、種子の発芽や幼植物の生長が阻害される。直接的な除去は細い根茎が残存するため効果が薄く、また他の在来種に悪影響を与えるおそれもある。水管理によって生育を抑制すると共に、国内のこれまでの産地以外の場所に投棄されないよう、啓発に努めることが重要である。

【関連文献】

平新版 5 p.146, 農教Ⅱ p.358-359, N水草 p.275.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオブタクサ *Ambrosia trifida* L.

【概要と選定理由】

大形の多年生草本。同属の外来種であるブタクサと同様、風媒花で多量の花粉を放出し、それがアレルギーの原因になる。国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は直立し、上部で枝を分け、高さ 2m 以上になる。葉は対生して長い柄があり、よく育ったものでは葉身は掌状に 3~5 裂し、長さ、幅とも 25cm に達し、両面とも短毛があってざらつき、辺縁には細かい鋸歯がある。花期は 8~10 月、枝先にブタクサとよく似た総状花序をつけるが、ブタクサより長く、一つ一つの頭花もブタクサより大きい。時に生長しても葉が 3 裂しないものがあり、マルバクワモドキ form. *integrifolia* (Muhl. ex Willd.) Fern.として区別されることがある。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在では世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

オオブタクサ 東：6 西納庫 (塚本威彦 2560, 1997-10-11), 13 小坂井町 (加藤等次 s.n., 1959-8-5), 15 佐藤町 (瀧崎 9686, 1987-8-22)。西：20 追分 (新井文子 945, 1994-9-9), 22 涼堂 (塚本威彦 1375, 1994-9-12), 23 三箇町 (畑佐 9729, 2020-10-16), 24 矢並町 (山崎玲子 956, 1994-9-21), 25 田町 (奥村富枝 3, 1993-10-12), 26 渡刈町 (落合鈴枝 880, 1996-8-25), 29 太平町 (杉田一記 1365, 2010-9-4), 30 合歓木町 (中村さとこ 799, 1993-9-15), 31 長嶺 (金子律子 1319, 1995-9-28), 32a 井ヶ谷町 (芹沢 47296, 1987-10-8), 33 藤井町 (堀田喜久 1869, 1992-8-12), 34b 河方町 (芹沢 67545, 1993-9-10), 35 西浅井町 (中村さとこ 701, 1993-8-26), 36 吉良町岡山 (芹沢 68687, 1993-10-13)。尾：37a 水野町 (塚本威彦 8, 1991-10-30), 38a 岩作 (半田多美子 631, 1992-9-13), 38b 北新田 (伊藤恭子 573, 1992-8-26), 39a 諸輪 (岡本沙矢香 528, 2001-9-21), 39b 杓掛町 (浅野守彦 630, 1999-9-5), 40a 追分町 (武田弘光 150, 1993-9-18), 41b 佐布里 (加藤雅憲 664, 1996-9-7), 46c 草井 (佐分康之 1015, 1996-8-23), 48 気噴町 (太田さち子 598, 1993-8-30), 49c 師勝町高田寺 (鈴木幸子 652, 1994-9-15), 49d 西枇杷島町橋詰町 (水谷善彌 12024, 1994-8-30), 50 守山区原境町 (鳥居ちゑ子 137, 1992-9-9), 51 天白区島田 (武藤靖子 235, 1992-9-7), 52 中村区宿跡町 (鶴岡佐知子 202, 1992-10-16), 54 尾西市起 (芹沢 60192, 1991-9-6), 55 福島町 (水野峰子 399, 1994-10-17), 56b 三本木 (芹沢 68119, 1993-9-27)。2 豊根村 (富山地区, 旧村域), 4 津具地区, 5 旧稲武町 (小林 2006), 11 新城市作手地区 (小林 2000), 17 田原市旧町域 (小林 2002) などからも記録されている。

マルバクワモドキ 西：22 涼堂 (塚本威彦 1375, 1994-9-12), 24 寺部町 (山崎玲子 648, 1993-8-27), 25 荒井町 (畑佐 2537, 2001-9-29T), 26 今町 (畑佐武司 2462, 2001-9-14T), 29 小美町 (伊那知子 899, 1993-9-19), 31 長嶺 (金子律子 1319, 1995-9-28), 36 吉良町 (芹沢 68687, 1993-10-13)。尾：40a 追分町 (武田弘光 150, 1993-9-18), 48 細野町 (太田さち子 698, 1993-9-13), 50 守山区天子田 (鳥居ちゑ子 132, 1992-9-8), 51 天白区天白町 (芹沢 95805, 2019-9-21), 56b 三本木 (芹沢 68120, 1993-9-27)。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋立地など、湿り気のある荒地に多い。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には 1950 年代はじめに渡来した。上田 (1960) は、「1958~59 年に愛知学芸大学農場の一隅に小群で生育しており、前後して知多常滑でも見た」と報告している。現在では愛知県でも平野部~丘陵地に普通に見られる。ブタクサハムシの被害を受けるが、1 年草のブタクサと異なり、あまり減少していない。

【被害状況／駆除策と留意点】

植物体が大きく、休耕田などの湿地に入り込むと旺盛に繁殖して群落を形成する。低湿地の植物に影響を与えることが懸念される。ブタクサ同様、花粉がアレルギーを引き起こす。

【特記事項】

葉がクワに似ているため、クワモドキとも呼ばれる。幼株の葉はしばしば切れ込まない。

【引用文献】

- 小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.148. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.145. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.201. 愛知県林業試験研究推進協議会.
上田 豊. 1960. 愛知県西三河の帰化植物. 植物研究集録(5): 1-8.

【関連文献】

北帰化 p.4, 保帰化 p.83, 平帰化 p.199, 平新版 p.361, 農教 I p.315.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

アメリカセンダングサ *Bidens frondosa* L.

【概要と選定理由】

果実は扁平な長卵形で2本の棘があり、衣服にひっついて運ばれる、いわゆるひっつき虫。同属の種群の中では、より早く国内に広く帰化した。国の総合対策外来種に選定されている。センダングサ属は広く分布する外来種で、似た種類も多いので、外来の主な種を記載した (p.171~176)。

【形態】

1年生草本。直立する茎を1本立ち上げ、上部に枝を対生させる。茎は一般的に赤紫色を帯びる。茎も枝も断面は四角形で、4稜がある。葉は対生し羽状に深裂する。荒い鋸歯が有る。頭花にはよく目立つ包葉がつき、舌状花は無い。

【分布の概要】

【世界の分布】

アメリカ大陸原産。ほぼ全世界に帰化している。

【国内の分布】

北海道, 本州, 四国, 九州。

【県内の分布】

東：3 下田(瀧崎 25952,2009-9-21T), 4 水梨川(瀧崎 23592,2007-10-9T), 7 平山(榊原利修 1309,1992-9-25), 8 長篠(加藤等次 2157,1992-10-10), 11 田原(瀧崎 28823,2012-9-22T), 12 豊島(加藤等次 3863,1993-9-28), 13 御油町(瀧崎 14711,1993-10-3T), 14 相楽町(鈴木美恵子 235,1992-9-13), 15 嵩山町(芹沢・芳山朋子 216,1984-10-10), 16 西赤沢町(瀧崎 30025,2013-10-13T), 17 浦町(瀧崎 23414,2007-9-17T), 18 堀切町(瀧崎 27931,2011-9-24T)。西：5 面ノ木峠(鈴木学 9,1982-9-25), 19 坪崎(芹沢 63174,1992-9-8), 20 寧比曾岳(水野岸子 843,1985-10-9), 21 東大沼(長谷川朋美 1034,1992-10-22), 22 平畑(塚本威彦 1367,1994-9-12), 23 西中山(日比野修 893,1992-9-30), 24 幸海町(山田初代 1197,1991-9-20), 25 猿投町(磯貝彰宏 343,1983-9-23), 26 渡刈町(落合鈴枝 467,1993-10-2), 27 黒笹(白井里華 842,1992-9-20), 28 牧平(福岡義洋 1424,1990-9-21), 29 茅原沢町(伊奈知子 921,1993-9-24), 30 竜泉寺町(本多さおり 827,1994-9-22), 31 坂崎(金子律子 1292,1995-9-27), 32a 井ヶ谷町(鈴木学 2276,1983-9-17), 33 西別所町(堀田喜久 3017,1991-10-5), 34b 川口町(中村さとし 741,1993-9-10), 35 西浅井町(芹沢 68454,1993-10-4), 36 鳥羽(芹沢 68728,1993-10-13)。尾：38a 長湫(半田多美子 2,1991-10-30), 38b 米野木(伊藤恭子 642,1992-9-25), 39a 諸輪(鬼頭弘 246,1992-10-18), 40b 緒川(渡邊麻子 1002,1995-10-14), 41b 佐布里(加藤雅憲 1379,1997-9-26), 42a 植大(渡邊麻子 838,1995-9-28), 42b 砂谷町(岡本久美子 791,2000-9-24), 43 北条(芹沢 65071,1993-5-16), 44a 奥田(岡島沙矢香 478,2001-9-13), 44b 片名(大西博 1086,1992-9-17), 45 本宮山(松田ちか子 889,1986-9-20), 46c 木賀町(竹下希望 1380,2010-9-24), 47 大山(村瀬正成 930603,1993-9-11), 48 玉野町(太田さち子 849,1993-9-25), 49a 川井町(水谷善彌 10673,1992-9-22), 50 守山区小幡(福岡義洋 2130,1992-10-30), 51 天白区植田(渡辺幸子 663,1992-9-18), 52 中村区城屋敷町(鶴岡佐知子 199,1992-10-16), 54 尾西市開明(渡辺幸子 778,1992-10-20), 56b 八ツ屋(芹沢 73299,1996-10-1), 57b 佐屋町大野(山田茂貴 291,1992-10-6), 77c 新政成(高木順夫 21515,2012-11-1T)。



15 岩崎町 2006-9-23 瀧崎撮影

【生育地の環境／生態的特性】

休耕田や水路、ため池の縁など、水辺の環境に多く見られる。

【侵入経路／現在の生育状況】

侵入経路は不明だが、ひっつき虫なので物流や人の移動に伴って侵入したものと思われる。コセンダングサより早く侵入し、優先したが、現在はコセンダングサにニッチを奪われ、湿地に多く残っている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【被害状況／駆除策と留意点】

休耕田などに多く生育している。種子が衣服にひっつくので、除去する際に注意する。

【特記事項】

目立つ包葉がつくのは、在来種のタウコギと共通である。

【関連文献】

農教I p.327, 平新版5 p.357, 平帰化 p.200.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

コセンダングサ *Bidens pilosa* L.

【概要と選定理由】

果実に4本の棘があり、衣服にひっついて運ばれる、いわゆるひっつき虫。同属の種群の中では、九州以北の国内に最も広く、高密度に分布している。どちらかというとな乾いた明るい場所を好み、同属でコセンダングサより先に国内に広く帰化したアメリカセンダングサ *B. frondosa* L.を水辺の環境に追いやっている。

【形態】

1年生草本。直立する茎を1本立ち上げ、上部に枝を対生させる。茎も枝も断面は四角形で、4稜がある。葉は対生し羽状に深裂する。荒い鋸歯が有り、日にすかしてみると葉脈が太く膨らんでいるのがわかる。舌状花は無く、秋遅くに咲く頭花には一番外側の小花に筒状の小さな白い飾り花がつくことがある。多年草化する個体もあり、その場合しばしば主茎が早く開花枯死して、仮軸分枝をする。



12 富岡 2013-10-26 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

アメリカ大陸原産。ほぼ全世界に帰化している。

【国内の分布】

北海道, 本州, 四国, 九州。

【県内の分布】

東: 3 下田(瀧崎 25996,2009-9-21T), 8 七郷一色(芹沢 60820,1991-10-13), 9 乗本(瀧崎 32104,2016-9-24T), 10 布里(小林元男 49125,1993-10-24), 12 豊島(加藤等次 3864,1993-9-28), 13 行明町(加藤等次 1564,1992-7-13), 14 水竹町(井上美保子 61,1991-10-11), 15 瓦町(恒川敏雄 s.n.1945-10-14T), 16 豊橋港(瀧崎 10233,1987-11-23), 17 波瀬(瀧崎 11989,1990-11-18T), 18 堀切町(瀧崎 28644,2012-7-14T)。西: 5 川手(塚本威彦 2548,1997-10-5), 19 八幡(芹沢 64304,1992-10-17), 20 四ツ松(鈴木万里重 1198,1995-10-23), 21 蕪木(長谷川朋美 958,1992-10-7), 22 樽俣(日比野修 975,1992-10-22), 23 西中山(塚本威彦 422,1992-9-30), 24 上高町(山田初代 1447,1991-10-20), 25 猿投山(土場トシ子 657,1994-10-22), 26 河合町(落合鈴枝 474,1993-10-6), 27 明知(白井里華 956,1992-10-4), 28 鳥川(福岡義洋 1658,1990-10-10), 29 秦梨町(伊奈知子 1013,1993-10-1), 30 竜泉寺町(本多さおり 1058,1994-10-19), 31 芦谷(金子律子 1411,1995-10-11), 32a 井ヶ谷町(芹沢 35743,1982-10-4), 33 西別所町(堀田喜久 2034,1992-10-7), 34 明石町(畑佐 722,1999-9-11), 35 西浅井町(中村さとし 1005,1993-10-4), 36 鳥羽(芹沢 68720,1993-10-13), 37a 山の手町(村松 26207,2011-10-6), 38 本郷(伊藤恭子 576,1992-9-4), 39a 諸輪(濱島育子 1006,2016-10-27N), 40b 生路(中村裕治 884,1994-8-19), 41a 南柴田町(加藤雅憲 1007,1996-10-22), 41b 日長(加藤雅憲 737,1996-9-24), 42a 植大(渡邊麻子 452,1995-6-16), 42c 武豊(林彰一 859,1990-10-23), 43 千代ヶ丘(芹沢 68290,1993-10-3), 44a 鶴の山(田中郁子 239,1986-10-16), 44b 篠島(瀧崎 24958,2008-11-1)。尾: 45 八曾(松田ちか子 62,1985-11-3), 46a 南山名(上山英郎 71,1992-9-12), 47 大草(村瀬正成 931072,1993-10-23), 48 外之原町(太田さち子 277,1993-7-9), 49a 旭町(竹下希望 1584,2010-10-14), 49c 師勝町高田寺(鈴木幸子 279,1992-10-13), 50 千種区千種(岩田妙子 名-919,1988-11-2), 51 太白区八事裏山(西川勇夫 144,1992-6-23), 52 中村区城屋敷町(鶴岡佐知子 198,1992-10-16), 53 北方町北方(山田果与乃 1826,2011-10-21), 54 奥町(芹沢 60716,1991-10-8), 55 石橋町(家田晴俊 119,1992-10-16), 57b 立田村福原(山田茂貴 857,1993-10-13), 58b 弥富町(竹原芳子 1078,1995-10-26), 58c 竹之郷(芹沢 92441,2017-6-12)。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や荒地。明るく開けた環境を好む。果実は動物にくっついて散布される。

【侵入経路／現在の生育状況】

侵入経路は不明だが、ひっつき虫なので物流や人の移動に伴って侵入したものと思われる。アメリカセンダングサより遅れて侵入し、荒地や路傍のニッチを奪って置き換わっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【被害状況／駆除策と留意点】

荒地や路傍に多く生育している。果実が衣服にひっつくので、除去する際に注意が必要である。

【特記事項】

コシロノセンダングサ, オオバナノセンダングサ, タチアワユキセンダングサなどに似ている。

【特記事項】

原産地での詳細な分類も不明確で、検討の余地があると思われる。

【関連文献】

平新版 5 p.356, 農教 I p.332.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

コシロノセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *minor* (Blume) Sherff

【概要と選定理由】

コセンダングサの頭花に白い舌状の花弁がつくもの。コセンダングサと同様県内に広く生育しているが、どちらかと言うと暖地に多い。

【形態】

概要の項に述べたとおり、ここではコセンダングサに小さな白色の舌状花がつくものを指す。花弁の大きさは小さいが、管状にはならない。コセンダングサ同様に葉脈は肥大し、明かりにすかしてみるとゴツゴツと膨らんでいる。舌状花は不定形で、各々の形がそろわないことが多い。



12 富岡 2013-10-26 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

中南米原産。世界の暖温帯に広く帰化。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

東：8 豊岡(芹沢 68781,1993-10-17)，12 川田(芹沢 67771,1993-9-17)，13 西桜木町(瀧崎 16148t,1996-9-24)，14 豊岡町(瀧崎 31372,2015-11-3T)，15 岩崎町(瀧崎 6821,1981-10-23T)，16 豊橋港(瀧崎 10236,1987-11-23T)，17 芦ヶ池(瀧崎 9444,1987-7-5T)，18 和地～福江(名倉智道 131,1992-8-21)。西：23 西中山(塚本威彦 422,1992-9-30)，25 梅坪町(山崎玲子 722,1993-12-16)，27 明知(臼井里華 850,1992-9-20)，28 滝尻(福岡義洋 1901,1990-10-27)，32a 今川町(中村裕治 1370,1994-11-3)，34a 新田町(中村裕治 1340,1994-10-25)，36 東幡豆(壁谷重美子 1194,1994-10-11)。尾：37a 三沢町(日比野修 36,1991-11-4)，38b 梅森(伊藤恭子 747,1992-10-9)，42b 東徳田町(岡本久美子 843,2000-10-7)，44a 古布(大西博 138,1991-10-21)，44b 篠島(芹沢 83793,2008-11-1)，45 塔野地(塚本威彦 3061,2003-10-8)，46a 山那(上山秀郎 367,1994-9-17)，46c 赤童子町(竹下希望 1660,2010-10-26)，48 廻間町(山田果与乃 427,1998-10-3)，49c 師勝町久地野(鈴木幸子 584,1993-10-24)，49d 新川町西堀江(芹沢 78934,2003-10-3)，50 守山区小幡(太田由美子 197,1993-10-9)，51 昭和区隼人町(渡辺幸子 736,1992-10-10)，53 光明寺(佐分康之 1392,1996-10-12)，54 尾西市富田(渡辺幸子 1387,1993-10-19)，56a 甚目寺町下萱津(芹沢 68831,1993-10-18)，56b 長牧(芹沢 93612,2017-10-7)，58a 本町(永田晴美 648,1995-10-14)，58c 木場(芹沢 93625,2017-10-7)。

【生育地の環境／生態的特性】

コセンダングサと同様，路傍や荒地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【侵入経路／現在の生育状況】

侵入経路は不明だが，ひっつき虫なので物流や人の移動に伴って侵入したものである。コセンダングサより遅れて侵入した。

【被害状況／駆除策と留意点】

コセンダングサと同じ。

【特記事項】

コセンダングサも，秋になると白い飾り花を着けることがあるが，完全な舌状にはならない。オオバナノセンダングサ，タチアワユキセンダングサ，ハイアワユキセンダングサなどの類似種との関係は，十分に明らかになっていない。

【関連文献】

平新版 5 p.356，農教 I p.329。

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

タチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *radiata* Sch. Bip.

【概要と選定理由】

コセンダングサによく似て頭花に白い大きな舌状の花弁がつくもの。屋久島以南の琉球列島では、タチアワユキセンダングサと、下部で枝を多く分けて地を這うような草姿になる品種ハイアワユキセンダングサ f. *decumbens* (Greenm.) Sherff の方が、コセンダングサよりも優勢である。国の総合対策外来種に指定されている。県内ではまだ少ないが、渥美半島を中心にタチアワユキセンダングサ、ハイアワユキセンダングサの両方が帰化している。国の総合対策外来種であり、日本の侵略的外来種ワースト 100 でもある。

【形態】

コセンダングサに似て大きな白色の舌状花がつき、葉脈が太くならないものをここではタチアワユキセンダングサという変種に当てる。舌状花は先の凹んだ広倒卵形で、よく形がそろそろ。コセンダングサと異なり葉脈は肥大せず、明かりにすかしてみると細い筋が見えるだけである。学名は何を当てるのが正しいかよくわからないが、沖縄を中心に国内にいち早く帰化した大型の舌状花を持つものに当てられたものを用いておく。



ハイアワユキセンダングサ 瀧崎 28130

【分布の概要】

【世界の分布】

コシロノセンダングサと区別されていないことが多い。中南米原産。世界の暖帯～亜熱帯に広く帰化しているらしい。

【国内の分布】

本州，四国，九州，琉球，小笠原。

【県内の分布】

タチアワユキセンダングサ

東：9 竹ノ輪町(芹沢 83487,2008-10-4)，14 海陽町(渡邊幸子 5669t,2006-10-30)，15 牛川町(芹沢 94996,2018-11-3)，17 赤羽根町高松(小林元男 40487,1992-11-25)，田原町長興寺(瀧崎 33128,2017-6-25T)。尾：52 中川区包里(高木順夫 20461,2011-10-16)。

ハイアワユキセンダングサ

東：18 堀切町初立池(瀧崎 28130,2011-11-4T)，伊良湖岬古山(瀧崎 32387,2017-4-2T)。

【生育地の環境／生態的特性】

放棄された畑や新しく開かれた造成地などにコセンダングサやコシロノセンダングサに混じって侵入する。県内では特に東三河に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【侵入経路／現在の生育状況】

侵入経路は不明だが、県内へは渥美半島に先ず侵入したと考えられる。

【被害状況／駆除策と留意点】

東三河中心に比較的希に帰化している。

【関連文献】

平新版 5 p.356, 農教 I p.328.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオバナノセンダングサ *Bidens pilosa* L. var.

【概要と選定理由】

コセンダングサの頭花に白い大きな舌状の花弁がつくもの。シロノセンダングサとして *Bidens alba* (L.)DC.の学名を当てられることもあるがよくわからない。「タチアワユキセンダングサ (オオバナノセンダングサ)」として国の総合対策外来種に選定されているが、タチアワユキセンダングサとオオバナノセンダングサは少なくとも県内の個体群については区別できる。

【形態】

概要の項に述べたとおり、ここではコセンダングサに大きな白色の舌状花がつくものを指す。舌状花は先の凹んだ広倒卵形で、比較的よく形がそろろう。コセンダングサ同様に葉脈は肥大し、明かりにすかしてみるとゴツゴツと膨らんでいる。学名は何を当てるのが正しいかよくわからない。



16 大崎町 2013-10-27 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

中南米原産。世界の暖温帯に広く帰化。コシロノセンダングサと区別されていないことが多い。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

東：12 上平井雁峯山(小林元男 55042,1994-11-12)，13 江島町豊川河川敷(芹沢 89089,2013-11-2)，14 海陽町(渡辺幸子 5670,2006-10-30)，15 石巻萩平町四谷(瀧崎 17588,1999-10-16T)，16 明海町(瀧崎 24236,2003-7-13T)，17 芦町(瀧崎 24252,2008-7-20T)，18 中山町大松上(芹沢 90805,2015-10-12)。
西：25 千足町逢妻女川(畑佐 6442,2003-10-14)，36 佐久島(中根幸司 229,2006-11-12)。尾：44a 野間(芹沢 88208,2012-11-3)，50 千種区宮根台(鳥居ちよ子 2234,2002-10-27)，51 昭和区広路町隼人池(渡辺幸子 5251,2002-10-31)。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や荒地。県内では特に渥美半島に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【侵入経路／現在の生育状況】

渥美半島では、コシロノセンダングサと置き換わって増えている。

【被害状況／駆除策と留意点】

コセンダングサと同じ。

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オワリセンダングサ *Bidens subalternans* DC.

【概要と選定理由】

葉が細かく切れ込むセンダングサの仲間。ホソバノセンダングサ *Bidens parviflora* Willd. と長く間違われたままになっていた。2011年に上記の種であることを明らかにし、和名を新称した(瀧崎2012)。関西地方で確認され、最近関東地方(千葉県)でも見つかった。センダングサ類の中で花期が最も遅く、主に晩秋～初冬に咲く。

【形態】

葉は細く切れ込み、ホソバノセンダングサに似る。頭花が大きく、1頭花中の小花数が6~12個と少ないホソバノセンダングサと異なる。オワリセンダングサでは1頭花中の小花数は20を越える。果実の棘は4本で、これも棘が2本のホソバノセンダングサと異なる。また、枝を対生させるセンダングサ類の中であって、茎の上部で枝が互生する。直立して2m近くまで立ち上がる型と、比較的下部で互生する枝を分け草丈50cm以下の型の2型が帰化しているが原産地での関係は不明である。



【分布の概要】

【世界の分布】

南アメリカ原産。オーストラリア、ヨーロッパに帰化している。

【国内の分布】

本州(千葉県, 愛知県, 大坂県, 兵庫県)。国内の標本室で、ホソバノセンダングサに紛れている可能性がある。

【県内の分布】

東: 16 高師石塚町(瀧崎 30073, 2013-11-9), 18 中山(芹沢 78204, 2002-10-3)。西: 佐久島(瀧崎 28266, 2012-4-28T)。尾: 41b 旭南(鳥居ちゆ子 3003, 2011-10-25), 44b 大井(芹沢 63624, 1992-9-22), 49d 西枇杷島町南六軒町(鈴木幸子 750, 1995-10-9), 50 守山区中志段味(鳥居ちゆ子 1876, 2000-10-1), 51 天白区中砂町(渡辺幸子 4900, 2001-9-27), 52 中川区江松(芹沢 40933, 1984-10-18), 55 祖父江町神明津(渡辺幸子 3260, 1997-10-23), 58b 小島新田(芹沢 60702, 1991-10-8), 58c 木場(芹沢 93628, 2017-10-7)。

【生育地の環境／生態的特徴】

比較的海に近い路傍や荒地、河川敷などに生育する。県内では尾張地方に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【侵入経路／現在の生育状況】

侵入経路は不明だが、尾張西部の港湾部に最初に侵入した。庄内川の河川敷や、名古屋港、飛島村の木場などで多くの個体が見られる。その他の地域では、まだ個体数は少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

尾張地域の港や河口付近に多く生育している。

【特記事項】

ホソバノセンダングサは、現在のところ県内では確認されていない。

【引用文献】

瀧崎吉伸. 2012. オワリセンダングサ. くさなぎおごけ 6. p.13-15. 愛知植物の会.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ポンポンアザミ *Campuloclinium macrocephalum* (Less.) DC.

【概要と選定理由】

多年生草本。2008年に愛知県で国内最初の生育が確認された（瀧崎 2012）。太い地下部があり、一度侵入するとなかなか除去できそうもない。スワジランドでは強害雑草となっているという。侵入初期であるが今後分布を拡大するおそれがあり、予防的な意味で愛知県条例公表種とされた。

【形態】

地下部は太く、分岐して深く地中に伸び、長い走出枝を出して栄養的に旺盛に繁殖する。茎は下部で枝を分けて直立し、高さ 40~150cm、太く緑色で中空、赤色の腺毛を密生する。葉は対生し、長楕円形、長さ 6~8cm、先端は鈍頭~ややとがり、厚い草質、辺縁にはややあらい単鋸歯があり、茎と同様に腺毛を密生する。側脈は裏面で突出して目立つ。花期は 7~11 月、直立する枝の先端に直径 2~3cm の頭花をつける。頭花には小さなピンク色の管状花が多数密集してつき、総苞片は 2 列、外総苞片、内総苞片ともに長卵形、外総苞片には腺毛が密生する。そう果は長さ 4~5mm、冠毛があって風散布する。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。アフリカにも帰化している。

【国内の分布】

現在のところ愛知県以外では記録されていない。

【県内の分布】

東：15 石巻西川町（芹沢 88823, 2013-9-12）、16 磯辺下地町（瀧崎 26141, 2009-10-4）、17 野田町（瀧崎 25822, 2009-8-21）、18 夕陽が浜（瀧崎 24978T, 2008-11-2）。豊川市にも生育しているというが、標本が確認できていない。

【生育地の環境／生態的特性】

裸地や路傍草地に生育し、一度侵入すると栄養繁殖して密生群落を作る。地下で広がって、アスファルトのすき間から出てくることもある。原産地では河川敷に大群落を形成するという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として導入を試みたものが逸出したと考えられる。スワジランド原産の希少種 *Vernonia glabra* (Steetz) Vatke の和名カオリアザミの名で岐阜県内にて行なわれた園芸植物展に展示されたことがあるらしく、種類を誤っての導入がきっかけであった可能性が高い。最初に定着したと思われる田原市江比間町では、泉漁港の空地を埋め尽くす勢いであった。近隣の畑や花壇などにも多数生育している。ただし泉漁港のものは、定期的に草刈りをされて、多少衰退している。

【被害状況／駆除策と留意点】

一度侵入すると強壯な地下部を形成するので、除去は容易ではない。豊橋市磯辺下地町の路傍に侵入した個体は、草丈が 40cm 程度でまだ侵入して 1~2 年程度と思われたが、地下 40cm ほども掘り返さなければ完全には駆除できなかった。泉漁港とその周辺では年に数回でいねいな刈り取りが行なわれているが、根絶には至っていない。今後も除草作業を継続していく必要がある。

花が美しく切り花にも適しているため、非意図的に生育してきたものが除去されずに残されていることがある。田原市内では園芸植物として意図的に植栽されていることもある。種子が風散布されるので、どうしても維持または植栽したければ、周囲への逸出防止に特に注意する必要がある。

【特記事項】

「桃色花火」という園芸名が、カオリアザミとしての本種に与えられたことがある。ポンポンアザミという和名は英名 pompomweed に由来する。

【引用文献】

瀧崎吉伸. 2012. 愛知県に帰化したポンポンアザミ. シデコブシ 2: 111-112.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。もともとは園芸目的で導入された植物であるが、馴化した系統が逸出し、自然生態系に大きな影響を与えるようになった。国の特定外来生物に指定されており、緊急対策外来種でもある。日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

根茎は短く匍匐または斜上して分枝し、大きな株になる。茎は束生して中部でまばらに分枝し、高さ 40~80cm, まばらに毛がある。根出葉は花時にも残り、長い柄があり、葉身は広倒披針形~長楕円形の単葉、または 1~2 対の側裂片を持つ。茎葉は対生、上部の葉はしだいに小さく、また無柄になる。花期は 5~8 月、頭花は枝の先に 1 個つき、直径 5~7cm, 舌状花は 7~12 個つき、花弁は橙黄色、先端は不規則に 4~5 裂する。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。ヨーロッパ, アジア, オーストラリア等に帰化している。

【国内の分布】

全国に帰化。

【県内の分布】

東: 4 津具東山 (瀧崎 33334, 2017-9-2T), 7 八橋 (瀧崎 24477, 2008-8-24T), 9 竹ノ輪 (瀧崎 28515, 2012-6-10T), 12 出沢 (瀧崎 26712, 2010-5-22T), 13 音羽町赤坂 (瀧崎 19655, 2002-5-26T), 14 清田町 (井上美保子 829, 1993-6-6), 15 飯村北 (瀧崎 22908, 2007-5-21T), 16 東赤沢町 (瀧崎 15851, 1996-6-14T), 18 江比間町 (瀧崎 28449, 2012-5-20T)。西: 5 押山 (塚本威彦 2274, 1997-6-7), 20 四ツ松 (鈴木万里亜 773, 1995-8-7), 24 中金町 (佐藤久美子 486, 1993-5-25), 26 今町 (畑佐 1872, 2001-5-25T), 27 三好 (臼井里華 360, 1992-5-19), 30 合歓木町 (中村さとこ 355, 1993-5-27), 31 坂崎 (金子律子 572, 1995-5-24), 32a 井ヶ谷町 (瀧崎 1647, 1979-5-27T), 36 佐久島 (瀧崎 25422, 2009-6-6T)。尾: 37a 東白坂町 (塚本威彦 1115, 1994-6-21), 38b 岩藤新田 (半田多美子 1054, 1993-6-1), 39a 諸輪 (鬼頭弘 111, 1992-5-17), 39b 阿野町 (浅野守彦 1284, 2002-5-12), 41b 佐布里 (鳥居ちゑ子 2625, 2008-5-28), 43 金山 (梅田零奈 357, 2000-5-22), 44a 浦戸大沢 (岡島沙矢香 268, 2001-5-17), 45 塔野地 (村瀬正成 930631, 1993-5-26), 47 大山 (村瀬正成 930393, 1993-6-12), 48 気噴町 (大田さち子 122, 1993-5-29), 50 守山区天子田 (鳥居ちゑ子 908, 1995-6-9), 51 緑区鳴海町 (岡本沙矢香 324, 2001-6-18), 52 港区船見町 (高木順夫 19071T, 2010-6-10), 53 北方町 (山田果与乃 1831T, 2011-10-21), 54 尾西市富田 (渡辺幸子 1676, 1994-6-21), 55 祖父江町 (渡辺幸子 6253T, 2011-6-15), 56a 栄 (芹沢 92022, 2017-5-14), 56b 八ツ屋 (芹沢 92189, 2017-5-27)。17 田原市旧町域, 旧赤羽根町 (小林 2002) などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋立地, 路傍の荒地地に生育する。多年生で、倒伏した茎は途中から根を出し、独立個体となる。多数の種子を作り、種子でもよく繁殖する。林内に侵入することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には明治時代に渡来し、観賞用に栽培された。戦後、各種工事の法面緑化用に播種されるようになり、馴化した系統が逸出して、20 年ほど前から河川敷等で大きな群落を作るようになった。園芸植物起源だけに咲きそろうとなかなか見事で、特定外来生物に指定される前は「オオキンケイギク祭り」が行われることもあったほどである。大原 (1971) の目録には記録がなく、その当時はまだほとんど逸出していなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

路傍に生育しているだけならば自然植生への影響は少ないが、河川中流域の礫の河原に侵入すると、カワラサイコ (県 VU), カワラハハコなどを著しく圧迫する。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.147. 東三林業振興会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.19, 保帰化 p.67, 平帰化 p.201, 農教 I p.344.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ミズヒマワリ *Gymnocoronis spilanthoides* DC.

【概要と選定理由】

水辺に生育する多年生草本。栄養的に盛んに繁殖して密集した群落を作る。花は多くの昆虫を誘引し、そのため他の植物の繁殖を間接的に阻害する可能性が高い。国の特定外来生物に指定されており、緊急対策外来種でもある。

【形態】

茎は中空で軟質、1m以上に伸びて倒伏し、各節から発根して新たな枝を伸ばす。葉は対生し、長さ1.5~3cmの柄があり、葉身は狭卵形、長さ7~13cm、幅2.5~5cm、基部はくさび形、両面無毛、辺縁には全体に鋸歯があるが、その鋸歯は低いこともかなり明瞭なこともある。花期は10~11月、頭花は枝先に数個ついて長さ1.5~2cmの柄があり、直径1.5~2cm、小花の雌ずいの先は二叉して白色となり、よく目立つ。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中央~南アメリカ。日本のほか中国、台湾、オーストラリア、ニュージーランド等にも帰化している。

【国内の分布】

本州。愛知県のほか、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県などで記録されている。

【県内の分布】

東：16 大岩町（芹沢 73441, 1996-10-20）、17 田原町権現池（瀧崎 28159, 2011-11-20T）。西：32a 城町（芹沢 86639, 2010-12-1）。

【生育地の環境／生態的特性】

河川やため池の水辺に密集した群落を作る。愛知県では冬期に葉は枯れるが、太い茎は枯死せずに残り、翌春には節から新たな側枝が伸びて再びコロニーを形成する（須山・藤原 2003）。豊橋のものは種子の稔性が低い（須山・藤原 2003）というが、刈谷のものはよく結実する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛知県では1996年に豊橋市梅田川で確認され、これが国内最初の記録である。しかしその時には既に相当程度まで広がっていて、実際にはその数年前から生育していたらしい（須山 2001, 須山・藤原 2003）。本種は熱帯魚水槽で観賞用に栽培される植物なので、投棄により逸出したと思われる。田原市では蔵王山麓の権現池で2000年に確認され、池を浚渫して根絶を試みた。残念ながら、掘り残された根茎から現在も生育が続いている。刈谷市は水辺に小群落があった。状況から見て何者かが植栽した、あるいは意図的に残した可能性が高い。

【被害状況／駆除策と留意点】

水辺に密集した群落を作り、他の植物を駆逐する。ただし、本種が生育している場所は既に他の帰化植物に席卷されており、そのため現在のところ在来希少種に対する直接的な影響は確認されていない。一方、本種の花には非常に多くの昆虫が集まる。そのため周辺の他の花が昆虫を誘引できなくなり、間接的に繁殖を阻害される可能性が高い。

【特記事項】

熱帯魚水槽で栽培される観賞用水草には、本種のほかにハビコリハコベ（p.169）、ウチワゼニクサ（p.188）、ボタンウキクサ（p.115）など、野外に逸出すると旺盛に繁殖し、深刻な環境影響を引き起こすものが少なくない。増殖して余った場合でも可燃ゴミとして処理し絶対に野外に投棄しないよう、特に注意する必要がある。

【引用文献】

須山知香. 2001. 日本新帰化植物ミズヒマワリ *Gymnocoronis spilanthoides* DC. 植物地理・分類研究 49: 183-184.
須山知香・藤原直子. 2003. 日本新帰化植物ミズヒマワリ（キク科）の驚異的増殖. 水草研究会誌(78): 1-5.

【関連文献】

平帰化 p.226, 農教Ⅱ p.274, N 水草 p.300.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

オオハンゴンソウ *Rudbeckia laciniata* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。温帯域に多く、休耕田や放棄畑地などに大きな群落を作る一方で、落葉広葉樹林など比較的自然度の高い場所へも侵入する。国の特定外来生物に指定されており、緊急対策外来種でもある。

【形態】

地下茎は横走する。茎は直立して上部で枝を分け、高さ 70~150cm になる。葉は互生し、下部の葉には長い柄があるが上部の葉は短柄、葉身は羽状全裂~複生、最下羽片は時に更に切れ込み、長さ 7~15cm である。花期は 7-8 月、頭花は各枝の先に 1 個つき、直径 7~10cm、舌状花は 5~12 個で花弁は黄色である。花後の花床は円錐形に伸びる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア、ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

東：2 三沢（加藤等次 3466, 1993-8-2）、3 御園（瀧崎 22580, 2006-8-27T）、4 津具油戸（瀧崎 27788, 2011-8-4T）、6 八橋（瀧崎 24414, 2008-8-23T）、7 荒尾（榊原利修 817, 1992-7-22）、13 江島町（瀧崎 25631, 2009-7-11T）。西：5 中当（伊東昭康 338, 1990-7-25）、19 閑羅瀬（日比野修 1617, 1993-8-16）、21 折立（長谷川朋美 617, 1992-7-30）、24 山中町（山崎玲子 596, 1993-8-6）、28 石原（原田勉 161, 1993-7-22）。新城市（旧鳳来町、作手地区）（小林 2000）、豊橋市北部（小林 2001）などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

休耕田、放棄畑地、河川敷、若齢の造林地などに多いが、明るい落葉広葉樹二次林の林内などにも侵入する。やや湿った場所に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には明治時代に渡来し、観賞用に栽培されたものが逸出したという。愛知県内では三河山間部に多いが、豊川市江島町の豊川河川敷では上流から流れ着いたと思われる株が開花していた。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県では現在のところそれほど多くないが、設楽町津具地区などでは休耕田に群落を形成している。植物体が大きく、根茎で栄養繁殖して密生群落を作るので、今後十分に注意する必要がある。

【特記事項】

ハナガサギク var. *hortensis* Bailey は頭花がほとんど舌状花になって八重咲きに見えるもので、しばしば栽培され、時に逸出する。

同属のアラゲハンゴンソウ *R. hirta* L. var. *pulcherima* Farw. も観賞用に導入され、埋立地などの荒地に逸出帰化している。法面緑化のため吹き付けられたものが、山地の林道沿いなどに逸出していることもある。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.154. 愛知県.

小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.131. 愛知県植物誌調査会.

【関連文献】

北帰化 p.39, 保帰化 p.65, 平帰化 p.205, 平新版 5 p.360, 農教 I p.381.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ナルトサワギク *Senecio madagascariensis* Poir.

【概要と選定理由】

多年生草本。比較的近年になって日本に侵入し、全国的に著しく増加している植物で、国の特定外来生物に指定されており、緊急対策外来種でもある。

【形態】

茎は基部で分枝して叢生し、無毛、高さ 30～70cm になる。葉は互生し、線状披針形～披針形、長さ 4～9cm、幅 1～1.5cm、先端は鋭頭～鈍頭、辺縁には少数の浅い鋸歯があり、基部は多少茎を抱く。花期は常滑では 5～6 月、頭花は各枝の先に 2～4 個ついて長い柄があり、直径 2～2.5cm、舌状花の花弁は黄色で長さ約 1cm になる。



43 りんくう町 2011-6-4 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はマダガスカル～アフリカ南東部。日本のほか、オーストラリア、南北アメリカに帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【県内の分布】

東：15 西岩田（吉田豊 s.n., 2002-2-27）、16 小松原町（中西普佐子 3293, 2009-6-25）。尾：43 りんくう町（渡辺幸子 5721, 2007-5-18）、52 中村区名駅南（高木順夫 23901, 2018-10-13T）。

【生育地の環境／生態的特性】

埋立地や河口近くの河川敷に侵入して大きな群落を作ることがあるという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1970 年代に兵庫県、徳島県、鹿児島県などで同時多発的に確認され、いくつかの和名が与えられた。全国的には近年著しく増加して問題になっているが、愛知県では 2002 年に豊橋市の人家庭先で確認されたのが最初の記録で、その後も常滑市の埋立地などで散発的に確認されているだけである。

【被害状況／駆除策と留意点】

旺盛な繁殖力を持つ種であるが、愛知県ではまだ散発的で、それほど広がっていない。発見次第除去すれば、根絶は可能と思われる。

【特記事項】

和名としてコウベギクが使用されることもある。

【関連文献】

平帰化 p.209, 農教 I p.384.

(芹沢俊介・瀧崎吉伸)

セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで、国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は直立し、よく育ったものは高さ 2m 以上になり、短毛を密生する。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は線状長楕円形、長さ 7~13cm、幅 1~2.5cm、辺縁には低い鋸歯があり、両面とも短毛があつてざらつく。花期は 10 月、花序群は茎の先端について大きい円錐状、長さ 10~30cm になり、頭花は直径 3~4mm で黄色、枝の上側に密生する。そう果は小さく長さ約 1mm、冠毛は汚白色で長さ 3~3.5mm である。



39 愛知池 2015-10-3 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在は、おそらく世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

全国に広く帰化している。

【県内の分布】

東：3 下栗代 (榊原利修 1403, 1992-10-12), 6 駒ヶ原 (瀧崎 21751, 2004-10-30T), 8 七郷一色 (瀧崎 27209, 2010-10-11T), 10 愛郷 (小林元男 49119, 1993-10-24), 12 富岡 (瀧崎 18232, 2000-11-19T), 13 豊川市三上町 (瀧崎 15395, 1994-10-23T), 14 水竹町 (井上美保子 60, 1991-10-11), 15 嵩山町 (芳山朋子 106, 1983-11-3), 16 西幸町 (瀧崎 7465, 1983-10-12T), 17 緑が浜 (瀧崎 11993, 1990-11-18T), 18 中山町 (瀧崎 28062, 2011-10-4T)。西：5 押山 (瀧崎 24865, 2008-10-11T), 19 牛地 (芹沢 64324, 1992-10-17), 20 寧比曾岳 (水野岸子 952, 1985-10-23), 21 花沢 (長谷川朋美 927, 1992-10-3), 22 市場 (伊藤泰輔 121, 1992-10-10), 23 上川口 (日比野修 976, 1992-10-22), 24 山中町 (山田初代 1412, 1991-10-13), 25 猿投町 (磯貝彰宏 1782, 1984-10-11), 26 幸町 (石川敏 167, 1992-10-17), 27 福谷 (臼井里華 978, 1992-10-9), 28 桜井寺 (福岡義洋 1676, 1990-10-17), 29 小美町 (伊奈知子 1090, 1993-10-6), 30 赤浜町 (中村さとこ 1095, 1993-10-14), 31 坂崎 (金子律子 1592, 1995-10-23), 32a 井ヶ谷町 (芹沢 36142, 1982-10-26), 33 西別所町 (堀田喜久 978, 1993-10-13), 34b 川口町 (芹沢 68748, 1993-10-15), 36 東幡豆 (壁谷重美子 1143, 1994-9-30)。尾：38a 熊張 (半田多美子 868, 1992-10-31), 38b 梅森 (伊藤恭子 742, 1992-10-9), 39a 諸輪 (鬼頭弘 236, 1992-10-11), 40a 追分町 (竹田弘光 52, 1992-10-16), 40b 石浜 (中村裕治 1292, 1994-10-14), 41a 加木屋町 (加藤雅憲 927, 1996-10-12), 41b 日長 (加藤雅憲 896, 1996-10-10), 42a 草木 (渡邊麻子 1022, 1995-10-22), 43 樽水 (芹沢 68357, 1993-10-3), 44a 野間 (瀧崎 28878, 2012-11-3T), 45 池野 (松田ちか子 1016, 1986-10-6), 46a 南山名 (上山秀郎 95, 1992-10-6), 47 大山 (村瀬正成 930956, 1993-10-2), 48 内津町 (大田さち子 915, 1993-9-29), 49a 西市町 (竹下希望 1650, 2010-10-24), 49c 師勝町熊之庄 (鈴木幸子 262, 1992-10-6), 49d 新川町桃栄 (芹沢 78976, 2003-10-25), 50 千種区千種 (岩田妙子 921, 1988-11-2), 51 昭和区南山町 (花岡昭 80, 1992-10-10), 52 中村区城屋敷町 (鶴岡佐知子 209, 1992-10-16), 54 尾西市東加賀野井 (渡辺幸子 1391, 1993-10-19), 55 天池町 (家田晴俊 112, 1992-10-7), 56 甚目寺町上萱津 (鈴木秀樹 3531, 1996-9-28), 57b 立田村 (西尾芳徳 859, 1994-10-13), 58c 新政成 (高木順夫 21525T, 2012-11-1)。44b 南知多町 (小林・深谷 2008) からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や路傍、河川敷、埋立地などに生育し、地下茎を伸ばして栄養的に繁殖し、数年のうちに荒地を埋め尽くす大群落を形成する。他の植物の発芽を抑制する物質を出すため、競合する植物は生育できないと言われる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地			○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

観賞用植物として明治時代に渡来し、大正末期より野生化したと言われる。戦後急速に分布を拡大し、愛知県でも 1960 年代に爆発的に増加したが、最近侵入してきたアワダチソウグンバイの被害を受けるなどして、一時期より目立たなくなってきた。

【被害状況／駆除策と留意点】

やや湿性の場所にも生育し、河川敷でタコノアシ (国: NT, 県: NT) などと競合することがある。しかし既に帰化植物として定着した状態になっており、現実問題として根絶は困難である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.265. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

北帰化 p.41, 帰化 p.58, 平帰化 p.216, 平新版 5 p.325, 農教 I p.388.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオアワダチソウ *Solidago gigantea* Aiton subsp. *serotina* (Kuntze) McNeill

【概要と選定理由】

多年生草本。セイタカアワダチソウによく似た帰化植物で、国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は直立し、高さ 70~120cm になる。葉はセイタカアワダチソウよりまばらにつき、ほとんど無柄または短い柄があり、葉身は線状長楕円形、長さ 10~15cm、幅 1.5~2cm、辺縁には鋭い鋸歯があり、両面ともほとんど無毛である。花期は 6~8 月、花序群は茎の先端について大きい円錐状、長さ 15~25cm になり、頭花は直径 6~7mm で黄色、枝の上側にややまばらにつく。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア、ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道~九州。

【県内の分布】

東：6 駒ヶ原（芹沢 70538, 1994-8-28）、12 杉山（小林元男 38463, 1992-7-26）。西：5 野入（小木曾旭 s.n., 1932-8-10）、19 一色（日比野 修 1671, 1993-8-24）、20 平沢（芹沢 76876, 2000-7-16）、21 立岩（長谷川朋美 620, 1992-7-30）、22 田代（日比野修 2357, 1994-7-11）、24 坂上町（山崎玲子 873, 1994-7-23）、25 猿投町（岡本英一 836, 1958-8-27）、28 明見（福岡義洋 910, 1990-7-10）、29 滝（瀧崎吉雄 s.n., 1950-7-9T）、30 桑谷町（本多さおり 499, 1994-7-12）、31 荻（金子律子 1036, 1995-8-10）。尾：37a 北丘町（日比野修 533, 1992-7-23）、38b 岩崎（半田多美子 1214, 1993-8-2）、39b 栄町（浅野守彦 570, 1999-8-7）、41b 大興寺（加藤雅憲 553, 1996-8-8）、47 野口（日比野修 4535, 1998-6-14）、49d 清須町新清洲（鈴木幸子 734, 1995-6-29）、51 天白区土原（武藤靖子 204, 1992-8-17）、55 矢合町（水野峰子 344, 1994-8-7）、56b 八ツ屋（芹沢 70006, 1994-7-1）。豊根村（旧村域）、東栄町、設楽町津具地区（小林 2006）、新城市（旧鳳来町）（小林 2000）、田原市（旧町域、旧赤羽根町）（小林 2002）などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

水路沿いや河川敷などの草地に生育する。セイタカアワダチソウに比べやや安定した場所に多く、路傍や休耕田などに生育することは少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として明治中期に渡来し、現在でも切り花用に栽培されることがある。北海道などでは多く見られるが、愛知県ではセイタカアワダチソウに比べずっと少なく、群落も小さくて、空き地を埋め尽くすような状態にはならない。

【被害状況／駆除策と留意点】

重点対策外来種とされているが、愛知県では現在のところ、自然生態系に対する深刻な影響は生じていない。

【特記事項】

セイタカアワダチソウに似ているが茎も葉もほとんど無毛、花は夏に咲き、頭花は大きく、ややまばらにつく。

【引用文献】

- 小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.155. 愛知県.
- 小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.150. 東三林業振興会.
- 小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.211. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.41, 保帰化 p.59, 平帰化 p.217, 平新版 5 p.325, 農教 I p.389.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

メリケントキンソウ *Soliva sessilis* Ruiz et Pav.

【概要と選定理由】

最近侵入してきた帰化植物の中で、人体への直接的影響が危惧される植物の一つ。初夏～夏に鋭い棘のある果実を作る。公園や河川敷の芝地に入り込み、レジャーシートを敷いて座ったりすると、棘で傷を負う恐れがある。国の生態系被害外来種リストには掲載されていないが、人間への直接的影響があるのでここで取り上げた。

【形態】

1年生草本。茎は分枝して広がり、直径5～20cmの株になる。葉は枝の先端部につき、長さ5～15mmの柄があり、葉身は楕円形、長さ8～20mm、幅7～15mm、2回羽状（大きい葉では一部3回羽状）に切れ込む。花期は4～6月、頭花は枝の先端につくが、葉腋から出た枝が伸長して先端に再び頭花をつけるため枝の途中につくように見え、果時に直径7～10mm、そう果は扁平で左右に翼、先端に棘があり、長さ約4mmである。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。南アメリカ、アジア、オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

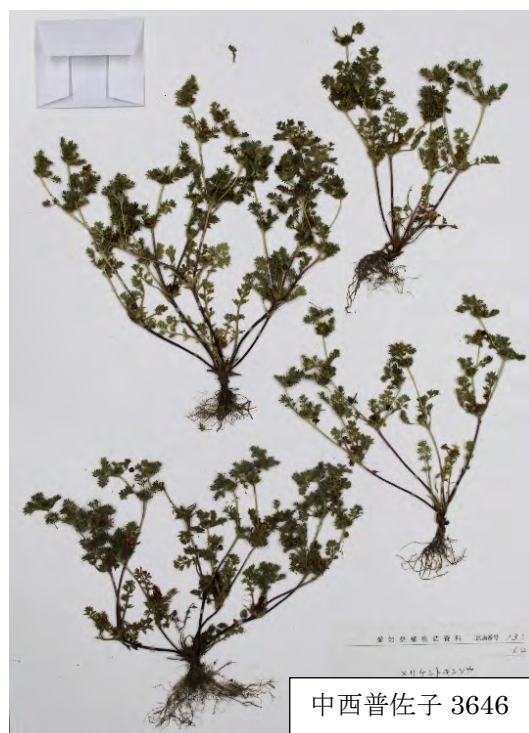
関東地方以西。

【県内の分布】

東：13 三上町（中西普佐子 3646, 2016-5-5）、15 賀茂町（中西普佐子 3649, 2016-5-5）、16 小島町（中西普佐子 3223, 2009-5-30）、18 中山町（瀧崎 31550, 2016-4-16T）。西：34b 松江町（瀧崎 34398, 2019-1-13T）尾：48 高蔵寺町（芹沢 86959, 2011-5-20）、50 名東区猪高町（鳥井ちよ子 3057, 2012-6-1T）、51 天白区（渡辺幸子 6219, 2011-6-3T）、52 港区戸田川緑地（芹沢 95362, 2019-6-16）、55 祖父江町（渡辺幸子 6415, 2012-5-18T）。このほかにも、41a 知多市新舞子などから報告がある。



48 高蔵寺町 2011-5-20 瀧崎撮影



中西普佐子 3646

【生育地の環境／生態的特性】

公園の芝生など、やや湿り気のある日当たりの良い場所に生育する。果実は鋭い棘で靴底などに刺さり、それによって種子が散布される。田原市のさららパークでは、乗用の芝刈り機のタイヤに種子が刺さり、広がってしまった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では1930年に和歌山県で採集されたのが最初の記録であるが、全国的に増加したのは比較的近年のことである。愛知県では2009年に豊橋市南部で採集された。2011年になって春日井市と名古屋市で確認された。春日井市は庄内川河川敷で、すでに相当の個体数が生育していた。豊橋市南部や名古屋市の鶴舞公園は侵入初期と判断された。現在では、県内の平野部に広く広がっている可能性がある。

【被害状況／駆除策と留意点】

新舞子マリナーパーク HP によれば知多半島の新舞子海岸では、海水浴場の足洗い場の芝生に侵入し、利用禁止となっている。伊良湖岬では、灯台近くの芝生広場や休暇村のさららパークに広がり、利用者に注意を呼びかけている。豊橋公園でも芝生に侵入しており、注意の看板が立てられた。各地で駆除活動が行われているが、一度定着してしまうと根絶は困難である。

【関連文献】

保帰化 p.34, 平帰化 p.221, 平新版 5 p.341, 農教Ⅱ p.287.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

アカミタンポポ *Taraxacum laevigatum* (Willd.) DC.

【概要と選定理由】

多年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで、特に市街地に多い。セイヨウタンポポと共に国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

根は地中に深く伸びる。葉はすべて根生、長さ 1~5cm の柄があり、葉身は長さ 5~15cm, 雑種性でないものは多くの場合深く切れ込むか、三角形~半日月形の裂片が規則的に並ぶ。花期は主に 4~5 月、花茎は花時に長さ 3-15cm, 先端に 1 個の頭花をつける。頭花は直径 3cm 程度、小花はすべて舌状花、総苞外片は著しく反曲する。果期には花柄が長く伸び、そう果は赤褐色、本体は長さ約 3mm, 嘴は長く伸びてその先に冠毛がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では、おそらく世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

東: 15 北部(丸山由佳里 27-30*, 1995-5-2), 16 大岩町(丸山由佳里 25-29*, 1995-5-1)。西: 20 上国谷(鈴木万里亜 333, 1995-5-4), 22 市場(塚本威彦 885, 1994-4-18), 24 扶桑町(山崎玲子 391, 1993-4-21), 25 猿投町(磯貝彰宏 956, 1984-5-2), 30 舞木町(本多さおり 271, 1994-5-13), 32a 井ヶ谷町(芹沢 39583, 1984-4-25)。尾: 38a 長湫(半田多美子 1750, 1994-9-28), 39a 白鳥(浜島育子 424, 1996-5-13), 40b 森岡(中村裕治 333, 1994-4-21), 45 八曾(芹沢・松田ちか子 86, 1986-4-22), 46a 高雄(福岡義洋 3144, 1995-5-4), 48 外之原町(太田さち子 1132, 1993-10-14), 50 千種区城木町(丸山由加里 36-28*, 1995-5-8), 51 太白区平針(丸山由加里 29-11, 1995-5-3), 54 尾西市開明(渡辺幸子 1863, 1994-9-27), 55 清水(鈴木秀樹 2056*, 1996-5-11), 57a 立込町(鈴木秀樹 2053*, 1996-5-11), 57c 梅之郷(鈴木秀樹 2061*, 1996-5-11)。*はアロザイム解析により純粋なアカミタンポポであることを確認したもの、他は形態的に見ておそらく純粋なアカミタンポポと思われるものである。ニホンタンポポの遺伝子を取り込んでいる可能性があるものを含めれば分布域はもう少し広がるが、それでもセイヨウタンポポと異なり、山間部にはほとんど出現しない。



【生育地の環境／生態的特性】

市街地の路傍や空き地などに多く、しばしば路面間隙雑草的な生え方をする。ニホンタンポポやセイヨウタンポポに比べると生活環の回転速度が速く、小型の個体でもよく開花する。セイヨウタンポポと同様無融合生殖を行って受精なしに種子を作り、そう果は比較的小さく、風に乗って遠くに飛散しやすい。種子は休眠せずに発芽して幼植物になる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

北海道には明治時代に既に入っていたらしいが、全国的に多く見られるようになったのは 1960 年頃からである。上田(1960)は、「1959 年春、愛知学芸大学構内各所で見た」と報告している。

【被害状況／駆除策と留意点】

アカミタンポポはセイヨウタンポポと異なり、郊外にはあまり進出していない。ニホンタンポポの遺伝子を取り込んだ個体は一時かなり増加したが、現在では少なくなっている。生育地が攪乱地に限られるので、在来植物への影響は限定的と思われる。

【特記事項】

T. laevigatum は、原産地のヨーロッパでは一つの種ではなく、多数の無融合生殖種の総称とされている。しかし、日本に帰化しているものが厳密にどの種に当たるかよく分からないので、日本では便宜的にこの学名が使われている。

【引用文献】

上田 豊. 1960. 愛知県西三河の帰化植物. 植物研究集録(5): 1-8.

【関連文献】

北帰化 p.44, 保帰化 p.2, 平帰化 p.235, 平新版 5 p.287, 農教 I p.394.

(芹沢俊介・瀧崎吉伸)

セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale* Weber ex F.H.Wigg.

【概要と選定理由】

多年生草本。純粋なものは現在では稀であるが、雑種性の個体を含めれば全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで、アカミタンポポと共に国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

純粋なものは資料が少なく、はっきりしない。以下の記述は雑種性のものを含む。

根は地中に深く伸びる。葉はすべて根生、長さ 1~5cm の柄があり、葉身は長さ 7~25cm、多少なりとも羽状に切れ込むが、その程度はさまざまである。花期は主に 4~5 月、花茎は花時に長さ 8~30m、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は直径 3~4.5cm、小花はすべて舌状花、総苞外片は通常著しく反曲するが、雑種性のものの中にはほとんど反曲しない系統もある。そう果は黄褐色、本体は長さ 3~3.5mm、嘴は長く伸びてその先に冠毛がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では世界中に帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球に広く帰化しているが、稀である。

【県内の分布】

愛知県では豊橋市、名古屋市等で確認されているが極めて稀で、一般的にセイヨウタンポポと思われるものは大部分がニホンタンポポの遺伝子を取り込んだ雑種性の植物である(渡邊ほか 1997)。遺伝子レベルの解析を行わないと正確な識別はできないため、確実に真のセイヨウタンポポである標本は東: 15 向山町(丸山由佳里 25-26, 1995-4-30) だけである。確実に雑種性である標本は、東: 16 大岩町(丸山由加里 27-29, 1995-5-1), 18 伊良湖(丸山由加里 25-1, 1995-4-29), 尾: 42b 亀崎町(岡本久美子 355, 2000-5-19), 50 西区堀越町(鈴木秀樹 2046, 1996-5-11), 51 天白区平針(丸山由加里 29-10, 1995-5-3), 52 港区野跡(芹沢 93849, 2018-4-14), 55 祖父江町大牧(鈴木秀樹 2054, 1996-5-11), 56a 甚目寺町中萱津(鈴木秀樹 2048, 1996-5-11), 57a 立込町(鈴木秀樹 2052, 1996-5-11), 58c 梅之郷(鈴木秀樹 2062, 1996-5-11) で得られている。おそらく雑種性と思われるが確認ができていない標本は、愛知県のほぼ全域から得られている。



丸山由佳里 25-26

【生育地の環境／生態的特性】

路傍草地や牧草地など、攪乱された草地に生育する。無融合生殖を行って受精なしに種子を作り、そう果は比較的小さく、風に乗って遠くに飛散しやすい。種子は休眠せずに発芽して幼植物になる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では明治時代に北海道に入り、全国に広がった。雑種性のものは、愛知県では 1980 年代末から増加したと推定される。

【被害状況／駆除策と留意点】

セイヨウタンポポの場合、交雑によってニホンタンポポの遺伝子(特に夏期休眠性に関する遺伝子)を取り込んだ「スーパータンポポ」に変身し、それが競合によってニホンタンポポを脅かすことが最も懸念される。しかし、幸いにして現在のところ、ニホンタンポポは愛知県の郊外ではそれなりに勢力を維持している。これが、たまたま極めて強力なスーパータンポポが出現していないからなのか、他のもう少し必然的な理由があるからなのかは、よくわかっていない。

【特記事項】

T. officinale は、*T. laevigatum* と同様原産地のヨーロッパでは一つの種ではなく、多数の無融合生殖種の総称とされている。しかし、日本に帰化しているものが厳密にどの種に当たるかよく分からないので、日本では便宜的にこの学名が使われている。

【引用文献】

渡邊幹男・丸山由加里・芹沢俊介. 1997. 東海地方西部における在来タンポポと帰化タンポポの交雑(1) ニホンタンポポとセイヨウタンポポの雑種の出現頻度と形態的特徴. 植物研究雑誌 72: 51-57.

【関連文献】

北帰化 p.44, 保帰化 p.1, 平帰化 p.235, 平新版 p.286, 農教 I p.395.

(芹沢俊介・瀧崎吉伸)

高原型マツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq.

【概要と選定理由】

2012年版では「タカネマツムシソウ」として掲載した植物。その後詳細に検討した結果、亜高山帯草地に生育する植物は形態的にも遺伝的にも高山帯のタカネマツムシソウとの間にギャップがあり、むしろ愛知県のマツムシソウ在来個体群（県 NT）と連続することが判明した。ただし自然集団は標高が低くなるにつれて頭花が次第に小さくなるため、在来個体群とは形態的にある程度識別が可能である（白鳥ほか 2017）。分類学的には在来個体群と同じ「マツムシソウ」になるため県の条例公表種からは除外されたが、遺伝的汚染を引き起こすおそれはより明確になった。

【形態】

レッドデータブックあいち 2020 植物編 p.666（愛知県 2020）に掲載されているマツムシソウ在来個体群に似ているが、花が大きく、ロゼット葉の切れ込みが深い。ただしロゼット葉の切れ込みが深い個体は、在来個体群の中にもある。

【分布の概要】

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

【国内の分布】

高原型は、主として長野県の山地帯上部～亜高山帯の草地に生育している。マツムシソウ全体としては本州～九州に分布しており、関東～中部地方では低山地や海岸まで見られる。

【県内の分布】

西：5面の木峠（芹沢 84346, 2009-7-4, 開花前）。

【生育地の環境／生態的特性】

マツムシソウ在来個体群と同様、日当たりのよい草地に生育する。発芽した個体は1年目には根出葉だけを出し、2年目に開花する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

面の木峠では、マツムシソウはもともとそれほど多い植物ではなかった。2000年代に入って花の大きいものがやたらに増加したと思い、2009年にロゼット葉を確認したところ、高原型と思われる植物が多量に混生していることが判明した。おそらくは何者かが、きれいなマツムシソウをたくさん咲かせようと思って意図的に播種した結果と思われる。2011年7月に市民の協力を得て除去作業を行ったが、抜き取った植物は軽トラック一杯分になった。その後ニホンジカによる食害が顕著になったこともあって、現在でははっきりした高原型の植物はほぼ消失した。

【被害状況／駆除策と留意点】

遺伝的な影響は残っていると思われるが、形態的に高原型と判断される植物がなくなったため、これ以上手の打ちようがない。しかし花の大きい高原型の播種は今後も面の木峠で、あるいは県内の他の場所で繰り返される恐れがあるため、継続的な監視が必要である。

【特記事項】

自然は庭園ではない。どのような花でもきれいにたくさん咲いていけばよいというものではない。「ない」というのは生物多様性の重要な要素で、その「ない」状態を破壊する持込みは、自然に対する重大な破壊行為である。自然の中への播種は、原則として絶対に行ってはならない。しかし現実には、2011年の除去作業についても、「きれいで、毎年楽しみにしていた。抜かなくてもよかったのではないかと……」と批判の声が少なくなかったと聞いている。生物多様性保全に関する合意形成は、なかなか難しい。

なお、豊田市下山区のマツムシソウ自生地ではすぐ近くに「長野県高ボッチ高原からマツムシソウを採取してきて栽培していた」という人がいて、自生集団に対する遺伝的汚染が懸念された。しかし遺伝的・形態的に検討した結果、遺伝的汚染はなかったものと判断された。

【引用文献】

愛知県 2020. p.666.

白鳥秀一・常木静河・花井隆晃・清田佳奈・芹沢俊介. 2017. 本州中部地方におけるマツムシソウ頭花形態の地理的変異. 分類 17: 147-158.

（芹沢俊介）

ウチワゼニクサ *Hydrocotyle verticillata* Thunb. var. *triradiata* (A.Rich.) Fernald

【概要と選定理由】

長い地下茎をひく多年生草本。水辺に密集した群落を形成し、在来の水辺植物に影響を与えるおそれがある。近縁種のブラジルチドメグサが国の特定外来生物に指定されているが、ブラジルチドメグサは現在のところ熊本県以外では確認されていない。全国に急速に広がりつつあるのはウチワゼニクサの方で、実際にはこちらの方が問題が大きい。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

地下茎は白色で細く、地中を長くはい、各節から多数の根と1枚の葉を出す。葉は長さ10~30cmの柄があり、葉身は楕形について円形、直径2~7cm、無毛、辺縁には浅い欠刻があるが、ほとんど全縁に見えることもある。花期は5~11月、花茎は葉腋から出て長さ10~20cm、花はその上部に数段輪生する。結実を確認していない。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。日本のほか、中央アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ北西部、オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

本州、九州、琉球。

【県内の分布】

東：15 飯村北（芹沢 83799,2008-11-2）、16 西幸町（瀧崎 33211,2017-7-30T）。西：29 奥山田町（芹沢 86304,2010-9-29）、34b 源氏町堀川（芹沢 95900,2019-9-29）。尾：39b 栄町（浅野守彦 2154,2009-9-23）、44b 山海（村松 27344,2014-5-10）、48 明知町（山田果与乃 1838,2011-10-23）、50 守山区竜泉寺（村松正雄 25135,2010-5-22）、51 昭和区鶴舞公園（鳥居ちる子 3285,2013-10-3）、52 中川区野田（中村肇 664, 2014-7-12N）、56b 堀之内（芹沢 95444,2019-6-21）。



芹沢 83799

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川の岸、小規模な水たまりなどの水湿地に生育する。止水域でも流水域でも生育でき、流れのある水辺では地下茎を水流にたなびかせるようにして広がる。豊橋市柳生川では、切れた地下茎の断片が下流に流れ着いて発根し、増殖している。豊橋市伊古部町では、水のない環境で陸生する群落もある。陸生したものは葉柄も花茎も短くなる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地			○	
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

ウォーターマッシュルームの名で熱帯魚水槽用の植物として販売されており、繁殖したものが捨てられて各地で野生化している。当初はブラジルチドメグサもウォーターマッシュルームの園芸名で流通した。販売サイトではビオトープへの導入も勧めていて、その目的で野外に植栽されることもある。愛知県では豊橋市飯村町柳生川で2005年に確認された。現在この場所では、ミゾソバやアキノウナギツカミなどの在来水辺雑草を圧倒して純群落を形成している。名古屋市守山区では、意図的に植え込んだものが広がってしまったという。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県内では現在のところ外来希少種への直接的影響は確認されていないが、今後本種がそのような植物が多い場所に侵入すれば、大きな影響を与えることは十分想定される。対策としては、本種を野外に投棄したり植栽したりしないことが最も重要である。アクアリウムの水替えの際、十分注意する必要がある。一度定着すると、除去しても細い根茎が残存するため、根絶は極めて困難である。

【特記事項】

タテバチドメグサとも呼ばれる。

【関連文献】

平帰化 p.153, 農教 I p.224, N 水草 p.302.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)